

【日本貿易統計（23 年 1 月）】

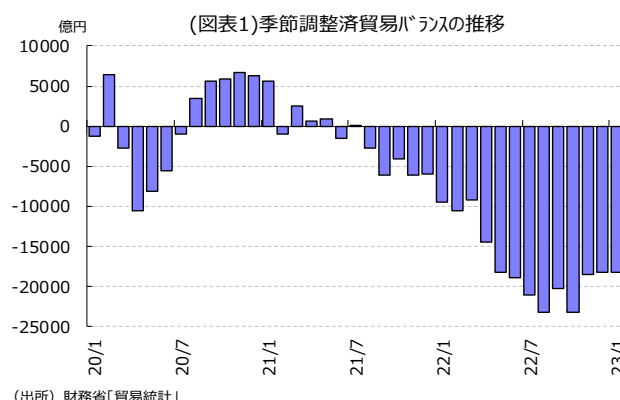
輸出は軟調 ～先行きの輸出は失速のおそれ～

経済調査部 エコノミスト 木村 彩月

1. 季調済の貿易収支は 18 ヶ月連続の赤字

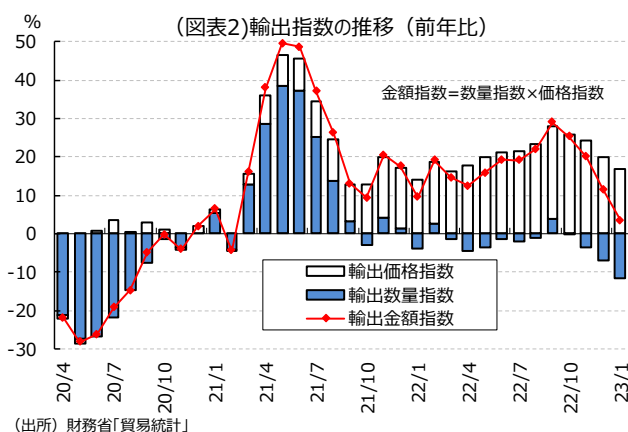
財務省から発表された 1 月の貿易統計によると、輸出金額が前年比+3.5%、輸入金額が同+17.8%と、いずれも前月（同+11.5%、同+20.7%）から伸びが鈍化する結果となった。

季調済前月比では、輸出金額が▲6.3%（12 月：▲3.3%）、輸入金額が▲5.1%（▲3.0%）と、ともに 3 ヶ月連続でマイナスとなった。季調済の貿易収支は▲1 兆 8,213 億円と、18 ヶ月連続の赤字となった（図表 1）。

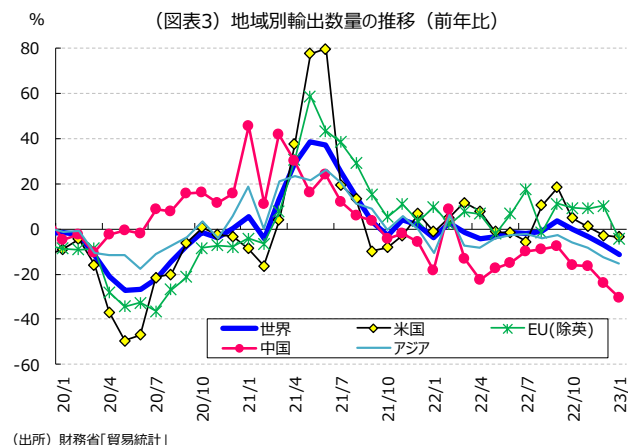


2. 主要相手国の輸出が軒並みマイナス

輸出金額の前年比を価格と数量に分解すると、価格指数が前年比+16.9%だったのに対し、数量指数が同▲11.5%と、4 ヶ月連続のマイナスとなった。価格指数の伸びは徐々に鈍化しているが、輸出金額が価格面の押し上げによって増加している構図に変化はみられない。一方で数量指数のマイナス幅は拡大しており、輸出の実勢が世界景気の減速を反映して次第に弱含んでいる様子が確認できる（図表 2）。



主要相手国・地域別の輸出数量指数を見ると、米国向けは同▲3.6%（12 月：同▲2.8%）、EU（除英）向けは同▲4.3%（同+10.2%）、中国向けは同▲30.7%（同▲24.0%）と、主要輸出先が軒並みマイナスとなった（図表 3）。米国向けはマイナス幅を拡大させ、2 ヶ月連続のマイナスとなったほか、これまで相対的に底堅い推移が続いていた EU 向けも、5 ヶ月ぶりにマイナスに転じた。中国向けは、今年は 2 月だった春節が今年は 1 月であったことや、ゼロコロナ政策の緩和による感染症拡大などが影響し、リーマンショックで世界貿易が落ち込んだ 2009 年 2 月以来の大幅なマイナスとなった。

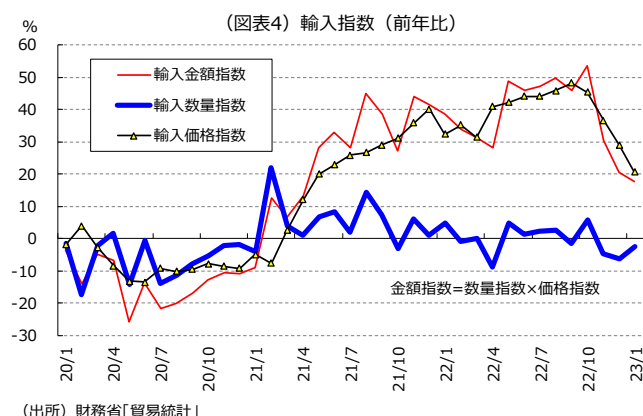


各国の動向を品目別に見ると、米国向けでは、主要輸出品の自動車（同▲18.6%）が大きめのマイナスとなったほか、自動車の部分品（同▲3.8%）もマイナスとなった。EU（除英）向けは、自動車（同+36.3%）が高い伸びとなったものの、自動車の部分品（同▲36.2%）や半導体等電子部品（同▲21.9%）のマイナス幅は拡大、原動機（同▲1.4%）がマイナスに転じるなど、幅広い品目で減少した。中国向けは、感染拡大の影響で急伸していた医薬品（同+6.8%）が前月（同+88.2%）から大きく減速したほか、鉄鋼（同▲32.7%）、原動機（同▲17.6%）、自動車（同▲69.4%）などの主要品目でマイナス幅が拡大した。

3. 輸入金額は伸びが鈍化

輸入金額の前年比を価格と数量に分解すると、価格指数が前年比+20.7%と、前月（同+29.0%）から伸びが大幅に鈍化したほか（図表4）、数量指数が同▲2.4%と3ヵ月連続のマイナスとなった。

年前半は、エネルギー関連や食品など、生活必需品の価格高騰が個人消費の下押し圧力となる状況が続くと見込まれ、数量ベースでみた輸入は今後も低迷が続く可能性が高い。



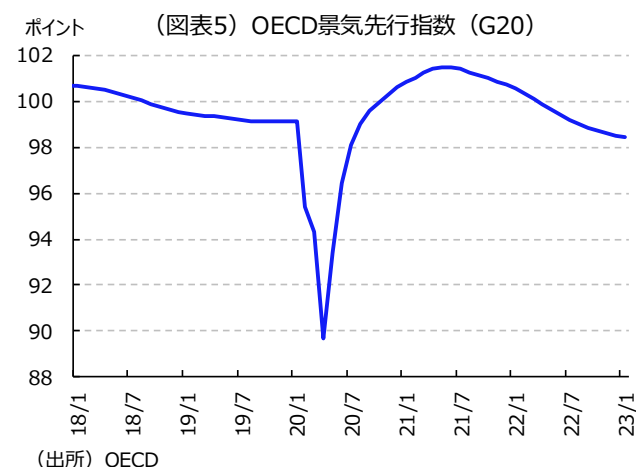
4. 輸出は失速のおそれ

14日に公表された10-12月期の実質GDP成長率では、輸出が前期比+1.4%と、5四半期連続のプラスとなった。水際対策の緩和に伴うインバウンド需要の回復で、サービス輸出が持ち直したことが寄与した。一方、中国景気の低迷などで財輸出は軟調だった。

1月の貿易統計でも輸出数量指数が4ヵ月連続で前年比マイナスとなったほか、月を追うごとにマイナス幅が拡大しており、年明け以降も、輸出の実勢が弱含む状況に変化がみられない様子が示された。

先行きの輸出は、主要な輸出相手国の景気の先行き不透明感が強いなか、軟調な推移をたどる可能性が高い。欧米

では、利上げの効果が一段と鮮明化することで景気減速が見込まれる。中国では、コロナ感染がピークアウトしたことで、今後景気回復が見込めるものの、不動産市場の低迷が足を引っ張るため、力強さは期待できない。OECD景気先行指数を見ると、足元でも低下基調の推移が続いている（図表5）。為替市場を見ても、これまで輸出の追い風となってきた円安の流れは一巡している。輸出の回復は、主要国の景気が底打ちから回復に向かう2024年度にずれ込むとみる。



※本レポートは、明治安田総合研究所が情報提供資料として作成したものであり、いかなる契約の締結や解約を目的としたものではありません。掲載内容について細心の注意を払っていますが、これによりその情報に関する信頼性、正確性、完全性などについて保証するものではありません。掲載された情報を用いた結果生じた直接的、間接的トラブルや損失、損害については、一切の責任を負いません。またこれらの情報は、予告なく掲載を変更、中断、中止することがあります。

●照会先● 株式会社 明治安田総合研究所 〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-11 TEL03-6261-6411